

落書き 許しません！



市内の高架下などに書かれた落書きを消す作業が市民の手で行われました。倉知の国道248号線の高架下には壁面の広い範囲に落書きがされており、関市生活安全推進協議会や南ヶ丘地区青少年健全育成協議会、関商工MSリーダーズなど、約50人と、

尾藤市長も参加して約1時間かけて白くきれいに塗り消しました。また西部地区においても西部地区青少年育成協議会などが中心となって半日ばかりで4か所の落書きを消しました。

あんな事、こんな事



無病息災を願う たいまつの炎

下之保戸丁地区に古くから伝わる「たいまつまつり」が13日に行われ、たいまつをたいて1年間の無病息災を祈願しました。その昔この地域に疫病がまん延したときに、住民がたいまつをたいて、疫病退散と無病息災を祈願したのが始まりで、松の木などでできたたいまつを神社に通じる道路脇100メートルほどに渡ってずらりと立て、灯りが灯されました。

幸せのレシピ 完成！

関青年会議所の例会で、キウイやブルーベリー、特産米みのにしきなど、関市の特産品をふんだんに使ったデザート作り教室が行われ、会員45人が挑戦しました。このデザートは東京で活躍するパティシエが「幸せのレシピ」をテーマに考案したオリジナルメニュー。会員らは市の特産品の魅力を知るとともに、地産地消の推進のため、このメニューを提供する飲食店も探しています。





郷土が誇る 匠の技

武芸川町八幡の刀匠の尾川邦彦さん(刀匠名・兼なぐさ園)が、岐阜県重要無形文化財である美濃伝日本刀鍛錬技法の保持者として岐阜県教育委員会から認定を受け、認定の喜びを尾藤市長に報告しました。尾川さんは昭和14年から作刀に従事し修練を重ね、52年に刀匠として独立、平成18年には人間国宝に次ぐ名誉である無鑑査に認定されています。尾川さんは「保持者の名に恥じない作品を作っていきたい」と今後の抱負を述べました。

地域の発展のため手をとりあって

関市と中部学院大学、同校短期大学部、岐阜医療科学大学は地域が抱える課題に対応するため連携・協力する協定を締結しました。中部学院大、同校短大との協定では、まちづくりの推進や生涯学習、福祉や他文化共生などの分野で、岐阜医療科学大学との協定には保健・医療の分野や文化、スポーツに関する連携などが盛り込まれており、今後の活用が期待されます。



大切な命を救うために

関ライオンズクラブが創立50周年記念事業の一環として、市内の全小学校にAED（自動体外式除細動器）が贈られました。贈呈式には関ライオンズクラブの会員のほか、安桜小学校の児童6人が出席し、伊佐地正克会長からAEDの目録が尾藤市長へ手渡されました。今回の寄付により、市内のすべての小中学校にAEDが備えられることになります。

上手に取れるかな

南ヶ丘保育園で毎年恒例の流しそうめんが行われ、園児らが楽しくいただきました。この日は梅雨の合間の暑い日で、園児らはつゆの入ったコップと箸を持って「来た来たー」と興奮しながら、流れてくるそうめんをかわいい箸ですくっていました。コップにそうめんを山盛りにしたり、コップ一杯にほおぼったりと、ほほえましい光景が見られました。



こぼれ話



7月13日に下之保戸丁地区の「たいまつまつり」の取材に行ってきました。このおまつりは、たいまつをたいて若宮様（若宮神社）に疫病退散と氏子の無病息災を祈願するものです。

小さな息子さんのために今年初めて参加した若いお父さん。たいまつを畦あぜに差しこんでいるお父さんの横で興味深げに見ているお子さんの姿が印象的でした。お母さんからたいまつたいまつの差し方を教わる小学生。

今度は友人のところへ駆け寄り、友人が差すたいまつの様子を伺っています。

次々と手際よくたくさんのたいまつが並び、赤い炎と立ち込める煙の中で、1人の若い男性が「守ってかんといかな」とポツリとつぶやいたのを耳にしました。

子どものためと思う親、地元のためと思う若者。地元に伝わる伝統行事というものは、このような人たちの気持ちによって受け継がれてきて、またこの気持ちによってこの先も受け継がれていくんですね。